

総論

第1章

「健康かごしま21」策定の趣旨

1 計画の目的

本格的な高齢化が進むとともに生活習慣病の増加や、要援護高齢者の増加が懸念される本県において、県民一人ひとりが健康で生き生きと生活できる「健やかな鹿児島」を創造するために、「早世（早死）の減少」を図るとともに、「健康寿命（健康に生活できる期間）の延伸」及び「生活の質（QOL）の向上」を目指すことを目的とする。

2 計画の性格

健康を実現することは、一人ひとりが主体的に取り組む課題であるが、社会全体としても、個人の主体的な健康づくりを支援していくことが不可欠である。

そのため本計画は、県民一人ひとりが取り組む個人の健康づくりのための指針であるとともに、県、市町村等の行政機関や家庭、学校、職場、地域など、健康に関連するすべての関係機関・団体が一体となって、県民の健康づくりに関する意識の向上及び取組を促そうとする指針でもある。

社会全体が連携を取りながら、総合的かつ効果的に健康づくりを推進する「県民全体で支え合う健康づくり」を目指している。

また、本計画は、生活習慣の改善によって健康を増進し、疾病の発病を予防する「一次予防」に重点を置いたものであり、それぞれのライフステージや生活の場に応じて、また、生涯を通じて実施されるものである。

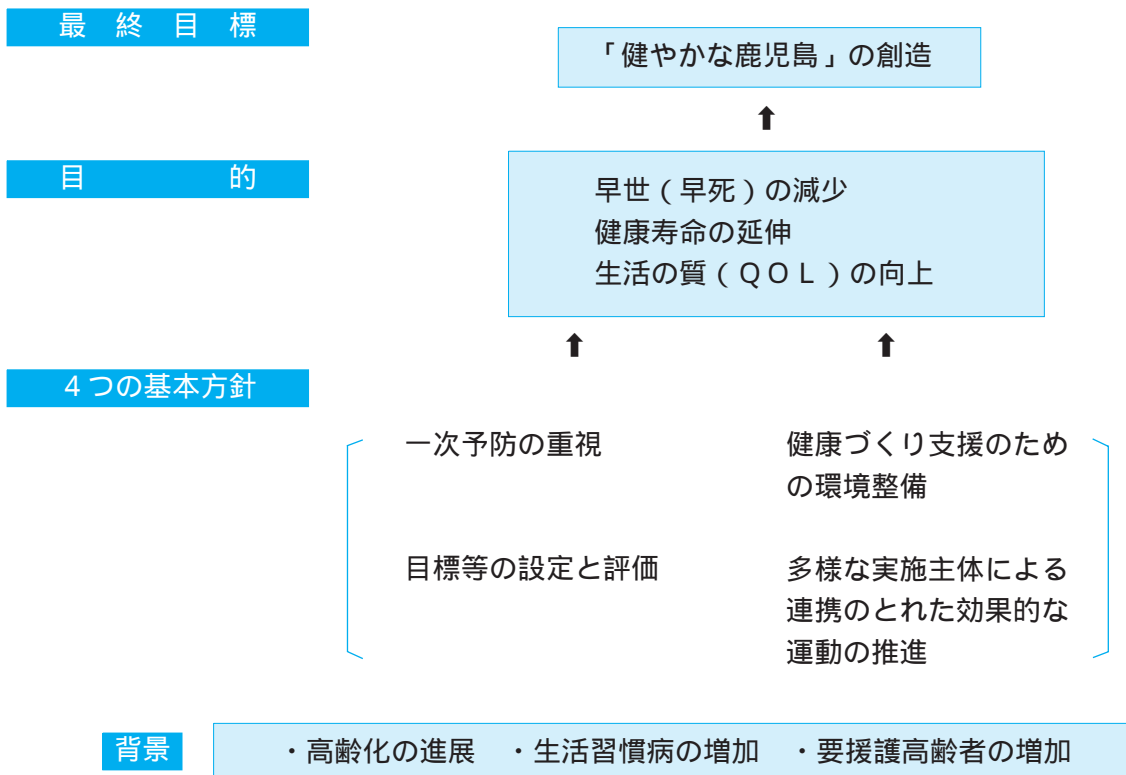


図1 - 1 .「健康かごしま21」の目的と最終目標等

3 計画策定の背景

本県では、平成3年度から「県民総ぐるみ健康づくり運動」を実施し、「毎月10日は『県民健康づくりの日』」「毎日1万歩運動」の推進項目の下で、健康づくり推進体制の整備、健康づくりの啓発、健康づくりの推進、基盤整備を基本に各種事業を展開してきており、これまでに一定の成果を上げてきた。

また、我が国においては、人口の急速な高齢化に伴う、生活習慣病及びこれに起因した痴呆、寝たきり等の要介護状態等になる者の増加等は、患者本人や、その家族の身体的・精神的・経済的負担はもちろん、社会全体においても、生産性の低下と経済面での大きな負担を強いるなど、深刻な社会問題となってきた。

一方では、最近の医学の目ざましい進歩により、生活習慣病の中でも遺伝子の関与が特定されつつある疾患もあり、今後、そのような知見が発症予知や発症予防に応用されることが期待されている。しかしながら、生活習慣病は、生活習慣や環境要因の寄与度が大きいとされており、今後とも、一人ひとりの生活習慣の改善が生活習慣病対策を進める上で重要なことに変わりはない。

そのため、国においては、この生活習慣病対策を強力に推進すべく、ヘルスプロモーションの理念に基づく施策の実施や、具体的な目標を定め、評価の視点を取り込んだ「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を、平成12（2000）年3月に策定した。

健康日本21について

「健康日本21」は、健康の保持増進、発症予防という「一次予防」に重点を置いて「生活習慣病」対策を強力に推進するものであり、健康の実現は個人の健康観に基づき一人ひとりが主体的に取り組む課題であることを基本としながらも、「健康づくりを個人の実践や責任だけに委ねる」のではなく、住民が主体的に健康づくりを実践できる環境整備や情報提供等を行っていくことにより、「個人の健康づくりを社会全体で支援する」こととしている（図1-2）。

そのため、科学的根拠に基づき選択された保健医療上重要となる対象分野ごとに数値目標を設定し、全国レベルでの戦略的基本計画として提示することにより、「健康づくり運動」の目指す姿をより具体的に示している。

このような健康づくりの考え方や進め方を通して、最終的には、国民の「生活の質（QOL）」の向上を図るとともに、「健康寿命（健康に生活できる期間）を伸ばしていく」こと、及び「早世（早死）の減少」を目指している。

みんなで支える「健康日本21」



図1-2. みんなで支える「健康日本21」¹⁾

4 計画の期間

計画の期間は、平成13年度を初年度とし、平成22年度を目標年度とする10年間とする。

なお、健康づくり対策の推進については、政策（施策）としての評価を適宜行い、その結果を計画の見直しや修正等に反映させることは重要である（「PLAN（企画） DO（実施） SEE（評価）」サイクル、図1-3）。

また、社会経済情勢の変化、医学の進歩等にも対応するために、計画期間内において中間評価を行い、必要に応じて検討を行うこととする。

「Plan Do See」の
サイクル

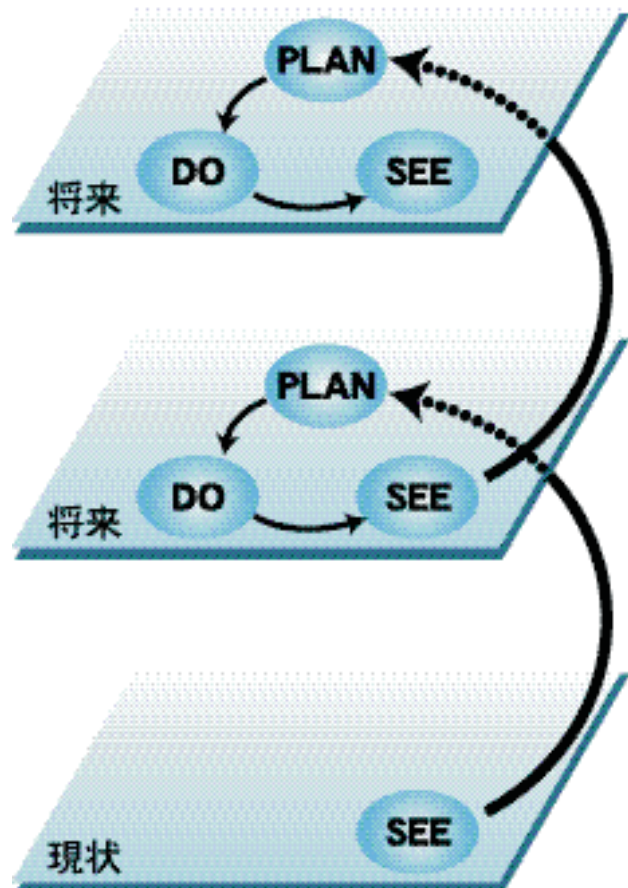


図1-3. PLAN DO SEEサイクル²⁾
(企画) (実施) (評価)

5 本計画と他の計画との関係

本計画は、平成13年度から推進される県の長期計画「21世紀新かごしま総合計画」の「21世紀新かごしま創造プログラム」として盛り込まれている「健康かごしまデザイン21」、「食・農・交流の創造」（表1）と密接な連携のもとで展開されるものである。さらに、「鹿児島県保健医療計画」、「鹿児島のびのび子どもプラン」、「鹿児島すこやか長寿プラン2000」や「鹿児島いきいき障害者プラン」等の関係する既存の県計画と有機的な連携を図って進めていくこととする。

なお、今後「健康かごしま21」の効果的・効率的推進を図るため、地域特性に応じた二次保健医療圏ごとの計画を策定することとする。

表1 「健康かごしまデザイン21」,「食・農・交流の創造」の1期事業内容

「健康かごしまデザイン21」	「食・農・交流の創造」(一部抜粋)
<p>1 健康づくり計画の普及・啓発・評価 健康づくり計画推進協議会の設置 健康づくりセミナー等の開催</p> <p>2 食生活の改善と健康食の普及 外食栄養成分表示店等の拡大 地場食材を活用したヘルシー料理教室等の開催</p> <p>3 癒(いや)しのための温泉活用 公営温泉利用施設等のネットワークの形成 温泉活用事例調査</p> <p>4 運動の日常化への支援 「プラス千歩運動」の推進 ウォーキングロード等の地域情報の活用促進</p> <p>5 県民健康プラザ健康増進センターを中核とした支援体制の整備 地域リーダー・自主グループの育成や活用の促進 市町村・関係団体等の行う健康づくりへの支援</p>	<p>1 かごしまの“食”に対する県民への理解促進</p> <p>かごしまの“食”体験講座の開催 ・<u>地場食材を活用したヘルシー料理教室</u></p> <p><u>新しい食メニューコンクールやヘルシーメニューコンテストの開催</u></p> <p>(_____ が関係部分)</p>

6 計画の策定経過

本計画の策定に当たっては、広く県民の意見を取り上げるため、「鹿児島県健康づくり計画検討委員会」(委員長:田中弘允鹿児島大学学長,委員30人)及び下部組織として「作業部会」(健康づくり関連の有識者18人)を置き、3回の鹿児島県健康づくり計画検討委員会及び4回の作業部会において、それぞれ協議・検討を行った。

本計画は、これらの協議・検討を踏まえて策定した。

参考文献,その他

- 1) (財)健康・体力づくり事業財団:めざせ「健康日本21」(パンフレット資料),2000 .
- 2) 厚生省・(財)健康・体力づくり事業財団:地域における健康日本21実践の手引き,2000 .

コラム

疾病予防の概念

- 一次予防 普段から健康増進に努め、疾病の発生そのものを予防すること。
例:適正体重の維持による糖尿病予防,高血圧の改善による循環器病予防など
- 二次予防 定期検診などで疾病を早期に発見し,早期治療によって疾病が進行しないうちに治してしまうこと。例:糖尿病検診と事後指導,各種がん検診など
- 三次予防 適切な治療による疾病や障害の進行防止を指す。リハビリテーションも三次予防に含まれる。